

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： 附属図書館

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>①-1 目標 ラーニングコモンズを活用して、グローバル化時代を生き抜く人材輩出の基盤となる教育プログラムの開発を進める。</p> <p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 教育プログラムに関わる調査、講演会や研修会の開催数、パイロット授業の試行数と参加者数</p>	<p>自己評価</p> <p>教育プログラムに関わる調査を以下の通り実施した。 ①出張者：田原教授、森岡准教授 期間：H26.9.19～29 出張先：Park Plaza Riverbank, St. Clare's Oxford, International School of London 目的：国際バカロレア「知験の理論」教員ワークショップ参加等 ②出張者：PRICHARD GALEB SYLVE准教授、FAST THOMAS DAVID講師 期間：H26.10.25～11.2 出張先：ヘルシンキ市立図書館、ヘルシンキ大学ほか 目的：クリエイティブシンキング担当教員のFD活動に関する調査等 ③出張者：田原教授、森岡准教授 期間：H27.2.23～24 出張先：上智大学短期大学部 目的：国際バカロレア教育に係る情報収集等 教育プログラムのパイロット授業として、ディスカッション、ディベート、プロジェクト、問題解決、リサーチ、ミニ・プレゼンテーションを通して検証的・創造的に考える力を養い対話力を身につけることを目標とした「考える力と対話力を培おう!!!」を12月から1月の4回シリーズで開講した。また、この講座を学生自ら提案書「岡山大学をグローバルにするためには」としてまとめ、学長に提案した。1月30日には、協同的問題解決入門として、共生と共創のための思考力・対話力ワークショップを開催、2月には、これからの社会を生き抜くための思考法の養成を目標とした「知験の理論」ミニ・セミナーを4回シリーズで開催した。 3講座開催し、延べ90名を超える受講者を集め好評を得た。</p>
<p>②研究領域</p> <p>②-1 目標</p> <p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	<p>自己評価</p> <p style="text-align: center;">/</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>③-1 目標 岡山大学の研究成果を広く社会に発信するため、「学術成果リポジトリ」のコンテンツ拡充を進める。 附属図書館が所蔵する貴重資料類を活用し、展示会、公開講座等を地域の公共機関と連携して実施するとともに、ホームページ等を通じて積極的に情報発信を行う。</p> <p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 学術成果リポジトリの採録論文数及びダウンロード数。展示会、公開講座等の参加者数。</p>	<p>自己評価</p> <p>博士論文のインターネットによる公表については、平成25年12月授与(平成26年5月9日作業完了)から平成26年9月授与(平成27年1月28日完了)までの取得者213名に対し、要旨公開213件、本文公開144件を着実に実施した。 所蔵する貴重資料を活用した社会貢献事業については、池田家文庫絵図展は前年比700名増の2,011名の入場者を集め、岡山大学公開講座(4回、参加者177名)、池田家文庫こども向け岡山後楽園ワークショップ(2回、65名)では、共に募集定員を超える申込があるほどだった。また資源植物科学研究所分館では、資源植物科学研究所100周年の関連イベントとして「初代所長 近藤萬太郎」特別展を開催した。また、植物研の所蔵する貴重資料を使った展示「江戸時代の食をめぐって」を早島町立図書館と共催で開催した。</p>
<p>④センター業務</p> <p>④-1 目標 引き続き教育改革の一環としての新たな附属図書館構想の検討を進め、中央図書館利用者サービス実施検討ワーキングの提言を基に、平成25年度の耐震改修を活用した新たな利用者サービスを実施する。 学術情報基盤整備のため、全学委員会及び全学WGを開催して増加する電子ジャーナル等経費への対応を策定し、必要なタイトル選定を進める。</p> <p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 貸出冊数、入館者数、電子ジャーナル利用者数</p>	<p>自己評価</p> <p>昨年度に取りまとめられた提言「岡山大学附属図書館の将来構想を考える」(平成25年2月)の具体化を図るプログラムのひとつとして、グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとして、図書館が自らの知的空間を活用した「知好楽セミナー」を企画し、「知」の交流拠点形成の一步としてスキル編を2回、新たに整備したラーニングコモンズを使用してのセミナー(談話会編)を2回開催し227名の参加者があった。また、館内スペースを利用し、華道部や美術部をはじめとした学生の作品展の開催、図書館職員のおすすめ図書等のミニ展示は、月1回以上企画し、利用者からの好評を得ている。このようなサービス向上をすることにより、入館者数、図書貸出数も過去最高となっている。 電子ジャーナル等については、電子ジャーナル等経費検討委員会提言(平成26年3月)を基に学内調整を進め、電子ジャーナル等経費検討委員会、電子ジャーナル等選定WGを開催して増加する経費への対応を検討し、平成27年4月からElsevierの契約形態変更(パッケージ購入を個別タイトル購入に変更)により対応することとし、第4回電子ジャーナル等選定WG(10月2日)において平成27年度購入タイトルを確定した。</p>
<p>【総括記述欄】</p> <p>平成26年度は、中央図書館、鹿田分館の耐震改修工事が終了し5月9日にリニューアルオープンした。両館に設置したラーニングコモンズ、中央図書館セミナー室・グループ学修室等の新たな施設が学生・教員のニーズに応えることができたこと、新たに始めた「知好楽セミナー」、教育プログラム開発に向けたパイロット授業、学内の多様なイベントが中央図書館で実施されたことなどにより、中央図書館の入館者数は前年度に比較して大幅に増加した。 次年度以降は、今年度実施した利用者サービスの充実と中央図書館に新たに設置したスペース(サルトフロスタ)を活用した新たなサービスを実施する。</p>	